



# 弘大農学部同窓会会報

第 5 号

昭和60年3月15日 発行  
発行 弘前大学農学部同窓会  
TEL. 0172-36-2111  
振替 盛岡4-564番  
印刷 (株) 笹 軽印刷

## — 母校創立30周年記念の年にあたって —

同窓会長 横山 宏

春の気配が一段と強まり、希望が沸いてくるような、若返りを覚える季節となってきましたが、弘大農学部同窓生各位も元気で御活躍のことと思います。

光陰矢の如しと申されますが、今春弘大農学部第30回生が巣立たれて、正会員数2,370名を越える大世帯となりました。

時の速さを早く感ずる年のせい、或は多忙な毎日のせい、一昨年来準備を進めて参りました弘大農学部創立30周年記念行事はもうすぐ目前に迫ってきて、いよいよ本番近しを思わせます。記念行事の第一回打合せが昨日のことのように思えてなりません。

幸に、同窓生諸氏と同窓会事務局の積極的御努力と御協力によって実施のメドもつき、すでに記念式典に間に合わせるべく事業に着手したのもあり、これらはほぼ順調に進んでいることとお知らせいたします。

それぞれ御多忙中寄稿されました各位と、何かと御連絡をいただいております諸氏には重ねて御礼を申し上げる次第であります。

同窓会としては、学校側とも連携をとりながら本記念事業の成功の為に同窓会役員会を随時開催し、詳しく担当部分の実行計画を練っておりますが、本番に向けて同窓生各位の特段の御協力をお願いする次第であります。

昨年中には同窓生名簿をお届けしましたが御覧になったでしょうか。知人、学友、或は学校の先生と住所、勤務先に目を通してそ

れぞれ御利用、御活用して欲しいと思っております。同窓生名簿の作成も皆様方の連絡を受けまして訂正を加えながら整理していただいているところでありますが、この名簿の要訂正部分に御気付きの点、或は新年度の人事異動等で変更のある方については早目に御連絡下さるようお願い致します。

創立30周年記念事業醸金についてですが、傾向としては古い卒業年次の成績が良く、学科別では農学科が園芸化学科、農業工学科、園芸学科を断然リードしております。

記念事業をより盛り上げる為にも各位の御参加を期待申し上げますが、この際、まだ間に合いますので、醸金されていない方々の御協力並びにすでに御予告いただいている方々の御送金方についてお願いを申し上げます。

例年のことながら、学部を卒業し巣立たれた諸君にはお祝いを申し上げますが、社会の風は近年殊に経済不況、異常天候も手伝って冷たいものを感じます。大学での人間的研鑽、知と技の成果を生かして沈没しないように、周囲に先輩もいる筈だし、教えられる面もあると思うので連絡をとられるよう。先輩としては暖かさの中で今後立派な一人前になるためにきびしく指導されんことを期待いたします。

季節変動の大きいシーズン故十分各位共健康には御留意の上御活躍あらんことを祈念いたします。

## ◎ 一 母校創立 30 周年記念行事日程が決定 一 ◎

7月5日(金曜日)

記念彫刻完成式 15:00~15:30 同彫刻前  
同完成祝賀会 15:30~17:30 弘前大学  
大学会館3階(会費無料)

7月6日(土曜日)

記念講演会

松本 勤氏(39年卒, 秋田県農業短期大  
学教授) 9:30~10:30

「研究者・教育者として考えること」

佐々木信介先生 10:30~11:30

「農学部創設の頃」

記念式典 11:30~12:30

以上の会場は弘前文化センター

(弘前市下白銀町19-4) - 見取図参照 -

(☎ 0172-33-6571)

記念祝賀会 13:00~16:00

法華クラブ 3階大広間

(弘前市土手町126) - 見取図参照 -

(☎ 0172-34-3811)

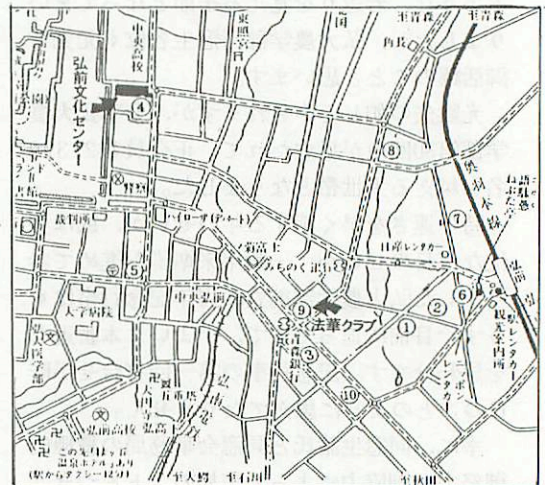
以上のとおり, 行事時刻が最終決定致しました。会場準備のため参加者は同封の受取人(同窓会)払いの行事「出席通知書」葉書の出席を○印で囲み, 6月20日までに御投函下さるようお願い致します。特に祝賀会の人数は早い目につかむ必要がございますから,

御予定の方は失念なきようお知らせ下さい。

なお6月20日すぎでも20~30人の追加は大丈夫でございます。本通知用葉書の差出有効期限は御案内の6月20日でございますから, 期限内に出して下さいれば幸いです。

なお, 同出席通知書の末尾に定例総会御出席申込欄も併記致しました。皆さんを複雑化させて恐縮と思っておりますが, 事務経費, 郵送料金節約のためでございます。御理解の上御協力下さるようお願い致します。

(総会に関する詳細は8頁にあります。)



全国から参加される皆さんに, 旅館とホテルをいくつかお知らせ致します。御利用の方は直接申し込んで下さい。なお予約できない場合には, 下記の弘前旅館組合に連絡しますと, 旅館, ホテル, また料金など, 紹介できることになっております。

- ①吉野ホテル 大町3丁目9-7 (0172)32-4417
- ②富士旅館 駅前町9-2 (0172)32-4151
- ③赤湯旅館 上土手町148 (0172)32-5217
- ④石場旅館 元寺町55 (0172)32-9118
- ⑤小堀旅館 本町89 (0172)32-5111

以上の旅館は朝食付 1泊5,000円~

- ⑥弘前第一ホテル 駅前町7-1 (0172)36-7861  
シングル 4,800, ツイン 8,000
- ⑦プリンスホテル 駅前1-3-4 (0172)33-5000  
シングル 5,170 ~ ツイン 8,800
- ⑧プラザホテル 代官町101-1 (0172)35-0345  
シングル 4,500, 同アウトバス 3,000  
ツイン 8,000
- ⑨ホテル法華クラブ 土手町126(0172)34-3811  
シングル 5,800 ツイン 10,000
- ⑩東栄ホテル 土手町166 (0172)33-8111  
シングル 4,800 ツイン 8,000

以上ホテルは素泊分, 4,800円まで無税です。

弘前旅館組合 本町117 (0172)34-2657

## 「30年のあゆみ」編集委員会だより

編集委員 工藤 啓一

昨年暮から精力的に原稿集めを行い、予定数の98%を確保することが出来ました。年末・年始のあわただしい時に、沢山の会員からの投稿をいただきありがとうございました。

さて、2月1日に第9回目の編集委員会を開催し、次のことが決定し、現在実行に移されています。

まず、記念誌の名称は、弘前大学農学部「30年のあゆみ」と決定しました。

記念誌の構成順序は、農学部長、弘前大学長、農学部同窓会長の挨拶文(3頁)に始まり、教職員30名による思い出の記(40頁)、座談会「農学部30年のあゆみ」の集録文(25頁)、会員129名の思い出の記・農学76名、園化17名、農工22名、園芸14名(130頁)、全講座による講座および研究動向の紹介文(60頁)、支部のプロフィール(10頁)、年表その他(12頁)、

挿入場所を限定しないカラー写真8頁を含む写真集(40頁)、合計320頁となっております。

完成までの目程は次の通りです。

2月23日までに165頁分の原稿を印刷所へ手渡しました。全投稿原稿は3月15日迄に数回に分けて印刷所へ渡し(写真は4月30日)、6月20日～25日には記念誌が完成、同窓会へ納入する予定になっております。

現在 編集委員一同は年表の草案作成、写真の収集に努め、少しでも会員の皆様に満足していただける記念誌作りに頑張っております。

なお、記念誌「30年のあゆみ」は、30年記念事業醸金者へのみ配布することになっております。印刷部数の決定にも影響がありますので、未醸金者は早めに醸金するようお願い申し上げます。



### 記念絵はがき

担当者 原田 順厚

30年以上の年月が過ぎると、古い卒業生の中には現在の校舎や全く様変りした附近の景観を知らない方も多いでしょうし、新しい卒業生は先輩方がどのような校舎で勉強したのか想像もつかないでしょう。30周年を機会に、記念誌とは別に「目で見える農学部の今昔」といえる絵はがきを作ることになっています。今のところ、カラー写真(現在)4枚とモノクロ写真(昔)2枚の6枚組を予定しています。目下鋭意原画の作成、収集に努めていますが、どなたか農学部旧校舎全景の鮮明な写真をお貸し願えれば非常に有難いのですが…。絵はがきの発行について皆様のアイデアと助言をお寄せ下さい。

### 記念図書の購入について

担当者 原田 幸雄

記念事業の一つである図書購入については、図書閲覧室の本の充実を主体に計画が進められている。辞典類、図鑑類の中で古くなったものの更新、利用範囲の広い、比較的高価なシリーズものの購入など、現在具体的書名の選定に入っている。この他に、学会誌バックナンバーの補充、古典的名著の復刻版、大型図書などに対する要望も強いのですが、何分限られた予算では無理のようで、これらについては別の機会に譲らざるを得ません。因みに図書閲覧室は教育研究協力室に所属し、農学部正面2階にあります。書庫には学術雑誌や全国各大学農学部の学術報告をはじめ、主として農林水産関係の多数の報告書が保管されていますので、皆様の積極的なご利用をお待ちしております。



## 30周年記念彫刻の制作について



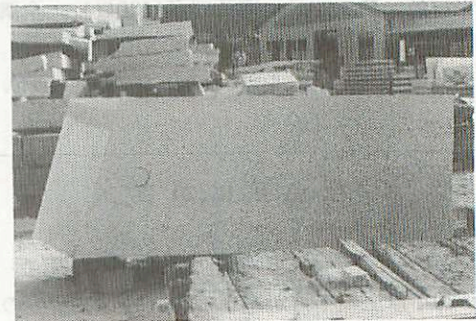
1年程前、農学部長佐々木信介先生よりこのお話を初めてお伺いした時、私は正直申し上げまして、当惑致しました。なるほど専門は彫塑であります。こと農学及び農学部については全く素人の私が、こんな大切な仕事をお引受けして良いものかどうか、内心、非常な不安にかられたものです。やがて、佐々木先生や豊川先生から、農学の精神の何たるかをお伺いしているうち、同じ人間として、同じキャンパスで研究する一員として、共通の問題を抱えていることに気がきました。それは、若い学徒が今迄もそして今後も学び、巣立っていく永遠の生きた運動体であることであり、彼らの心のどこかに農学の精神的シンボルを形成することは、きっと意義あることに違いないとの確信を抱くに致りました。

私たちは自然からの恩恵なしには一日たりとも生存し得ない存在である訳ですが、私たちが生きていること、「生命の大切さ」、これを自覚すること、そして毎日それぞれ充実した生活を通して、未来永劫に向って限りなく生長していく姿こそ、最も好ましいものと思われ、それこそ農学の原点ではないだろうかなどと、勝手に想像したりしました。そこで

教育学部美術部助教授 岡田 敬司

その理念をふまえ、耐久性、耐候性など考慮し、石を用いること、形は「生命運動体のエネルギー」を象徴すべく、大地を押し上げ、大地から伸びゆく姿が最適に思われ、上部は太陽に向って開かれた花として、逞しさ、力強さの象徴として、角柱状に設計致しました。太陽はいうまでもなく、人類永遠のあこがれであり、希望の象徴であり、農学を含めた人類の目標でもあります。

願わくは、今後永遠に、卒業を繰返していく若い学徒の、農学部の様々な思い出のシンボルとして、心の一角に留められることができますれば、作者としてこれ程幸せなことはないと申せましょう。



## 教室 だ よ り

## ＜畜産学講座＞

ごきげんはいかがですか？畜産学教室です。昨年、古き良き時代(!?)の香を洩く漂わせていた高安先生が退官され、ちょっと寂しくなりました。でも、悪戯学生の多さではひけを取りませんから、相変らず坪松・豊川両先生は手を焼かれている御様子です。

現在の研究テーマを簡単に御紹介致しますと、リンゴジュースの搾り粕を一種の“つけもの”にして貯蔵致します。この“つけもの”はリンゴ王国青森県では非常に安く出来ます

から、家畜に与えて安い牛乳、安い肉を生産し、日米経済摩擦を拡大しようというリンゴ粕の利用法の確立について。もうひとつは、家畜には内緒ですが、タダ同然、しかし味は最悪の稲ワラを家畜にどンドン食べて戴こう、丸々と太って戴こうという、稲ワラの利用に関する研究との二つが主なものです。

“つけもの”の方は研究成果が着々と立派に上がっており、先生も、「大体、目度が立ってきた」とにこにこ顔ですが、“稲ワラ”の

いささか虫の良い話はやっぱりなかなかかむずかしい様で、データは貯ってききましたが、「うーん」と顎を掻いておられます。このほか、私共学生がことのほか熱を入れている研究に“羊肉の旨い食べ方”があります。この畜産学専攻生ならではのテーマを御指導下さるのは、豊川先生の奥様で、こちらの方は顎を動かすお勉強、学生の必修研究科目です。

しかし、最近では、実験器具、設備の老朽化が著しく、使う前はまず修理、機嫌がよければ動く機械といった悪戦苦闘の毎日。加えて、先生までが「まァ、俺も年をとった」。

### ＜農産物利用学講座＞

当講座が開設されてから20年が経過した。この間に巣立った卒業生は今春170名余を数え、また5名の大学院修士を送り出した。彼らの多くは全国各地で食品、製菓、販売などの会社、および官公庁、教員など多方面にわたって活躍している。特に、食品を中心とした分野では、それぞれの職場でかなりの実力を蓄積しており、高い評価を得ていることが心強い。さて、講座のスタッフは斎藤善一教授、中村信吾助教授および五十嵐康雄助手の三人で“ノーサン”の特徴を出してきたと自負しているが、斎藤教官が今春4月に北海道大学農学部へ転出することになった。これまで当教室に傾けられた多くの御苦勞に感謝するとともに、益々の御健勝、御発展をお祈りしたい。講義や卒業研究でしぼられたことな

さて、そうしているうちに、悪戯学生も、春には足を洗って国・県の研究機関、農林行政等の公務員を中心に、農業団体、グリコ・森永事件の早期解決を願う食品業界、あるいは一国一城の主である農業自営等々に幅広い分野で活躍し、歴史の1ページをきざんでおられます。

同窓生の皆さんもたまには、御家族と、あるいは奥様と、未だいらっしゃらない方はおひとりでお越し下さっては如何でしょう。御活躍をお祈り致します。

(院生 井上)

ど懐しむ面々も多いことと思うが、機会があればぜひとも訪ねて行って欲しいものである。

二月の一番寒くまた雪も多い時に、卒業生数人が遠方から弘前に集まり、教官も入って盃を交えて夜更まで歓談した。10年ほど前に一気に連れもどされたことは言うまでもないが、学生時代の絆を大切にしている姿に頭が下がる思いであった。しかし、このような例はむしろ特別かも知れず、近くに同窓の仲間もなくして孤軍奮闘している人の方が多いのではないだろうか。どうかじっくりと力をためておくようお願いしたい。将来、新人のための門戸が広がることに繋がれば幸いである。

(Y. I記)

## 新たに迎える正会員

### 農学科 (18名)

#### 農学コース (13名)

石田 彰(作物)農水省函館統計情報事務所  
 新潟 亮( )北海道農業改良普及所  
 宮川 稔( )農水省札幌統計情報事務所  
 山内 俊範( )青森県庁  
 相馬 成光( )伊藤ハム  
 岩館 敏昭(育種)農水省統計情報事務所  
 長内 明人( )青森県庁

葛西 俊一( )未定

木村美貴子( )未定

山田 昇( )本学研究生

高橋 英樹(畜産)山崎製パン

蛸島 基( )青森県庁

山内 芳宏( )自営(農業)

#### 農業経済コース (5名)

一戸 牧子(流通)未定

黒滝 英樹(〃)五所川原市役所(臨時)  
 鎌間 春男(経営)シージーシージャパン  
 山内 茂寛(〃)中三デパート  
 斎藤 史則(〃)郡山中央青果

## 園芸化学科 (30名)

岩崎 和弘(園芸)未定  
 工藤万里子(〃)栗田工業  
 佐藤 俊一(〃)山崎製パン  
 対馬せつ子(〃)富士通流通システム  
 松山 博之(〃)未定  
 楠 あけみ(農産)日本製菓工業  
 多田 眞一(〃)本学大学院  
 中嶋 安恵(〃)タカラブネ  
 蛭田 寿郎(〃)明治ケンコーハム  
 廣田 秀明(〃)本学研究生  
 福土 摩弥(〃)日本データスキル  
 船木 直人(〃)青森県教員  
 三谷 満(〃)北海道生乳検査協会  
 渡辺 登(〃)自営(農業)  
 有路美佐子(生化)未定  
 伊藤 利宏(〃)山崎製パン  
 小野寺祐子(〃)伊藤園  
 古川 正雄(〃)持田製菓  
 佐藤 一良(〃)宮城県庁  
 沢田 善治(〃)二戸市役所  
 武田 栄治(〃)伊藤ハムディリー  
 宮西 温(〃)東北X線  
 吉川エリ子(〃)東京都庁  
 浅利登志子(土肥)青森ジャスコ  
 大山 健治(〃)千厩町役場  
 小玉 郁子(〃)未定  
 福島由美子(〃)青森スバル自動車販売  
 横山 善高(〃)相馬市農業協同組合  
 渡辺 清(〃)青森県警  
 石井 啓悟(〃)未定

## 農業工学科 (37名)

農業機械コース (13名)  
 古川 正美(機械)総合警備保障  
 伊藤 寿実(〃)ペーリンガーマンハイム山之内  
 犬飼 堅二(〃)ナラサキ産業

河内 勇人(〃)竜ヶ森レック  
 寺中 肇(〃)三協アルミニウム工業  
 藤田 昌広(〃)郵便局  
 吉田 敏弘(〃)盛岡市民生協  
 落合 英士(農動)未定  
 千葉 透(〃)日立入間電子  
 西谷 泰樹(〃)未定  
 森 良夫(〃)山崎製パン  
 湯本 淳一(〃)長野県教員  
 末次 元(〃)マツダ

## 農業土木コース (24名)

池田 司(水利)北海道開発局  
 岩村 利幸(〃)岩手県土地改良事業団体連合会  
 西 恭二(〃)アルファ技研  
 野呂 明弘(〃)青森県庁  
 松橋 和久(〃)青森県庁  
 佐々木良仁(〃)長野県庁  
 高野 浩輝(〃)男鹿地区消防組合  
 柴橋 和彰(〃)秋田県庁  
 柿崎 悟(農地)未定  
 河津 秀樹(〃)未定  
 徳差 英憲(〃)日本道路  
 中野渡 悟(〃)鹿島道路  
 花岡 登(〃)未定  
 吉田 誠司(〃)未定  
 伊藤 博明(〃)山科建設  
 今 拓道(〃)青森県共済農業協同組合連合会  
 石沢 雅史(造施)本学研究生  
 奥本 徹弥(〃)吉田産業  
 小山内文敏(〃)青森県庁  
 坂 達徳(〃)青森県信用農業協同組合連合会  
 鈴木 聖敏(〃)みちのく銀行  
 壬生 寿則(〃)コサカ技研  
 今井 得次(〃)東北建設コンサルタント  
 小川 裕明(〃)農業研修生派米協会

## 園芸学科 (28名)

楠 正幸(果樹)自営(農業)  
 渋谷 俊樹(〃)加勢造園  
 鈴木 均(〃)本学研究生  
 高橋 一弥(〃)北上市農協

長谷川重幸(〃)大原酒店  
 林 浄司(〃)北陸農政局  
 前田 豊孝(〃)未定  
 三上 道彦(〃)青森県庁  
 川合 信司(〃)アメリカ留学中  
 安藤 勝也(蔬花)北海道農業改良普及所  
 近藤 典子(〃)明星大学通信教育  
 斎藤 誠司(〃)滝沢村役場  
 斎藤 友彦(〃)東京都庁  
 下山 幹三(〃)青森県庁  
 立野 道夫(〃)海外青年協力隊  
 蛸島 陸子(〃)明星大学通信教育  
 村山 信子(〃)札幌市役所  
 安達 明子(病理)未定  
 扇田 琢哉(〃)青森県共済農業協同組合連合会  
 佐々木 忍(〃)未定  
 平賀 聖子(〃)未定  
 平野 昌彦(〃)自営

矢吹 克美(〃)未定  
 山根 雅史(〃)とんでん製菓  
 小堀 博文(昆虫)青森県庁(臨時)  
 瀬野 栄一(〃)本学研究生  
 中島 康介(〃)ジャンナムジャパン  
 横山 朋承(〃)青森県庁

### 大学院

農学科(1名)  
 田中 満(育種)未定  
 園芸化学科(2名)  
 夏目 郁也(生化)月島食品工業  
 曲田 純二(〃)日本シリポアリミッド  
 園芸学科(3名)  
 及川 健(病理)青森県庁  
 山下 一夫(〃)青森県庁  
 渡 康彦(昆虫)本学研究生

## 支部だより

### —— 青森県東青支部同窓会に参加して ——

青森県の心臓部にあたります東青支部同窓会は昭和59年12月17日青森国際ホテルで開催され、参加者は支部始まって以来という62名、本学からは佐々木学部長と工藤(事務局)が出席いたしました。今回は特に佐々木学部長が産業教育100年記念教育功績者として文部大臣賞を受賞されたことに対するお祝いの意味もあり、新谷東青支部長よりお祝いの言葉

とともに、佐々木学部長の経歴等の紹介があり、事務局からは30周年記念事業の協力に対する御礼と経過報告を行ないました。

その後、中村東青支部事務局長の進行で盛大なる懇親会が始まり、同窓会諸氏の深い絆を確かめあい、楽しい一夜を過しました。今後とも同支部の発展をお祈り致します。

(工藤記)



## 青森県南部支部

昨年につづき、農学部が全国共通一次試験八戸会場の分担という事で、今年もこれにあわせ県南支部会が1月27日八戸駅前の吉田屋で開催された。二年つづきであったが、会員40名、教官26名と多数の参加をみ、30年卒の福井支部長から59年卒の北林氏まで幅広く集まり、しかも今回は前回とは異った顔も多数みられ大盛況であった。今回は共通一次試験の八戸会場廃止論が出ている折、世話役の久保氏の挨拶の中で八戸会場存続の訴えがあり、ここで会員の盛大な拍手もあって教官一同胸中複雑な思いであったことと思われる。始まる時間が早かったせいか、時間的にも余裕があり、先生方も2日間に及ぶ共通一次の緊張

感から解放されたせいか一段と酒量も話もはずんだ様子で、ひざを交えての楽しい一時を過ごした。教官一同帰りには八戸名物小唄鮎をおみやげに今後の県南支部の発展と会員の活躍を祈って、ほろ酔い気分で車中の人となった。(宮入記)



## 定例役員会が開かれました

58・59年度事業決算ならびに次年度事業計画案にむけて、2月23日に役員会が開かれました。役員23名が出席し、次のような総会提出議案が審議されました。

## ◎今年度事業

## 1. 事業報告

- (1)名簿59年版発行 (2)支部活動協力  
(3)情報伝達活動 など

## 2. 会計決算 2月15日現在

## 3. 規則の一部改正

第5条3項副会長に(2名以内)を加える。

## 4. 役員交替

30周年記念行事終了後に取り組むことを了承

## 5. 総会開催

日時 7月21日(日曜)午後2～5時

場所 「ゆうぎり」

青森市新町1丁目8-23 (22)3972  
新町通、岡田書店裏側小路

## ◎新年度事業

平常年に戻りますが、事業内容は上記事業と概ね同じことが提案されました。

## ◎30周年記念事業報告

母校創立30周年記念事業の進行状況について説明されました。別記事で詳しく記載してあるとおり、決定事項、進行方向、および対応方法などが報告され、同窓生の御協力が必要されました。

総会では本事業の報告、ならびに会計報告も行なわれます。

なお、総会日が7月21日と、創立30周年記念日から2週間後と間が短く、同窓生の皆さんにはあわただしく御迷惑をかけることとなりますが、総会終了後、30周年の反省会を行ないません。会費2000円で御案内してありますので、多数の御出席をお願い致します。

## 学内人事

齊藤善一教授

北海道大学へ転出 (4月1日付)